

街を行く

第81回 高崎 *Takasaki*

市庁舎と中央銀座との乖離

東京から新幹線でたったの1時間、“グレーター東京”とも言うべき群馬県No.1の都市「高崎」。久しぶりに訪れた高崎は、残念ながら以前にも増して寂れています。駅前大型店舗の改築が響いたのかしれませんが、何より人通りが少ないのです。

小生、元気のない地方都市を訪れるたび痛感することがあります。わが街の活気や趣を維持しようと地元が頑張っている以上に街の衰退が止まらないという現実です。

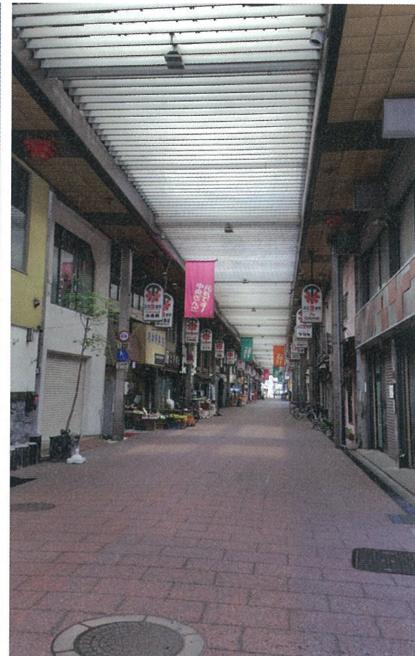
街が衰退する理由を考える時、高崎の現状をみて改めて感じたのは「官と民のアンバランス」でした。威風堂々と構える「市庁舎」と、もはや風前の灯の「中央銀座」がその適例でしょう。このアンバランスさは一体何なのでしょうか？ 東京一極集中の結果であって“時代の流れ”だと言われたら話はそれまでです。でもそれで話を済ませたら、地方経済は確実に衰退し地域社会は消滅へ向かってしまうと思います。

きびしい話となり高崎の方には申し訳ないのですが、今回は言わせてください。「市庁舎、市民センター、図書館など、こんなに凄いハコ物は本当に必要で、市民の皆さんのが声を反映したものなのでしょうか？」市民センターは東京から呼び寄せる芝居やコンサート会場と化していました。図書館に至ってはガラガラです。地方交付金の予算消化のため不要でも建てざるを得なかつたという実情や、地方の街になす術がないという現実も理解できます。

街が大好きで、全国を歩き回っている小生には、これはもはや一地方では



威風堂々と構える「市庁舎」と、もはや風前の灯の「中央銀座」。どうしてこうなったのか



なく国の政策的な問題だと捉えています。政治的利得ではなく、地元が本当に必要とする再生プランやプロジェクト、特区づくりを早期に進めて欲しいところです。

話は変わりますが、高崎には美味しいパスタ屋さんが多いことを知っていますか？ 街じゅうにパスタをメインとしたイタリアンレストランがひしめいています。当初は駅弁でも買って公園でのんびり楽しもうと思っていましたが、それを知りレストランに駆け込みました。独特的のトマトスープが絶品。空腹も箱モノ経済への怒り(?)もおさまり、気持ちよく初夏の散策を楽しみました。まだ6月ですが流石に上州、内陸独特の暑さはここでしか味わえません。変なところに感心していると思われそうですが、こうしたご当地ならではの特色こそ、街を盛り上げるポイントだと思って

います。特色が“暑さ”ならそれを楽しむなくては。「夏に暑く冬に寒い」が高崎の醍醐味なのです。皆さん、今年の夏は敢えて暑い高崎を訪ねてみてください。ただし、暑さ対策は万全に、水分補給はしっかりと。今回のきびしい見解は高崎の街を愛すればこそですから、どうか勘弁のほどを。

南 一 弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役に就任。